

平成 20 年 11 月 21 日

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会
会長 宮田 温巳 様

北アルプス広域連合
広域連合長 牛越 徹

「正副連合長の見解を質す」への回答について

平成 20 年 11 月 5 日付けの標記について下記のとおり回答します。

記

(質問 1)私どもの、自治の根幹を揺るがすこのような署名運動の実態を、本建設計画の最高責任者たる連合長が放置もしくは黙認するのは、連合長の責任放棄であると考えます。この件での連合長の見解を伺います。

(回答 1)署名は「新ごみ処理施設建設促進を求める小谷の会」が実施したものであり、強制しているものではなく問題はないと考えます。

また、広域ごみ処理施設は、行政が推進している事業であり、署名の趣旨にも問題はないものと考えます。

(質問 2)1.に関連して、連合長は署名を受け取った際に「連携の深い小谷村の皆さんから促進要望をいただいたことは大きな意義がある。思いに応えるためにも、しっかり白馬村の皆さんにご理解いただけるように努力したい」と話したと報じられています。

連合長が受け取った署名簿は、上述のように不適切極まりない方法によって作成されたものです。それでも談話は有効だとお考えでしょうか。

(質問 3)太田村長は、私どもごみ連協の署名集めに対し厳しく批判してきました。その一方で、太田村長は、小林村長と同じように、連合の意に沿う団体の署名集めには、たとえそれがどんなに不適切であっても寛容です。このことは、公平・公正を旨としなければならない自治体のリーダーとして、また、本建設計画の責任者の一人として、その資質を疑わせます。この件での太田副連合長の見解を伺います。

(回答 2・3)1 でご回答したとおりです。